2020年度水俣フォーラム 事業報告（案）

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、福岡展、第 18 回記念講演会をはじめ予定の催しが軒並み延期、中止を余儀なくされた異例の 1 年となった。そのような中、「水俣病読書案内」を作成し、他団体の協力も得て掲載書籍の通信販売を行い、予想を上回る受注があった。ホームページは発送物との迅速な連携を強化するとともに、各種案内や報告の速報性を高めた。水俣病関連書籍の出版編集協力や水俣病資料の複写受託なども行ったが、いずれも事務所内での活動が中心とならざるをえなかった。また、コロナ下においては、オンラインも併用して記念講演会や水俣セミナーを開催することとし準備を進めた。運営面では、2021 年度からの常勤職員 2 名の採用を決め、6 月から両名は研修を兼ね定期ボランティアとして事務所の活動を担った。なお、今後約 5 年の人件費増加を補うため、3 月に「水俣フォーラム継続基金」を募ったが、ありがたいことに 1 ヶ月足らずで 700 万円が寄せられた。今後しばらくはコロナ下での活動となるであろうが、様々な方法を模索しながら水俣を今まで以上に多くの人たちに広く伝えていけるよう、来年度の活動に臨みたい。

１. 水俣病公式確認６０年記念事業

①展示物のリニューアルと新規制作の進行（パネル発注は福岡展開催決定後）

②水俣展全図録の編集（印刷発注は福岡展開催決定後）

２. 水俣展

①福岡展　2020 年 12 月開催予定を 2021 年 11 月に 1 年延期したが、その後中止を決定

②首都圏展　24 年の会場を調査

３. 講演会開催

①記念講演会

第 18 回を中止（4 月 29 日、福岡･エルガーラ、グリーンコープ･西日本新聞社共催）

翌年の第 18 回の準備（21 年 4 月 24 日、有楽町マリオン朝日ホール、朝日新聞社共催）

②水俣セミナー

3 月の南部篤（国立生理学研究所）セミナーを翌年度に延期

③石牟礼道子追悼対談「水俣病闘争とは何か」米本浩二×実川悠太

（3 月 21 日、福岡･あいれふ講堂、46 名）

４. 機関誌発行

①今年度は発行せず

５. その他の事業

①水俣病読書案内の作成と掲載 6 種等の書籍販売

②水俣病読書会　翌年度に延期（第 8 回、12 ～ 24 人、当初予定 2 ～ 4 月）

③市川敏明さんを偲ぶ会　翌年度に延期（当初予定 2 月 20 日、早稲田奉仕園）

④岡本達明資料の複写を矢作正より受託　8 ～ 10 月、複写単価 30 円、1.6 万枚

⑤水俣病ライブラリーの整理（書籍、映像、写真、音声）

６. インターネット・オンラインの利用

①ホームページ　発送物との迅速な連携は強化。大幅なリニューアルは、SNSとの連携まで含め構想・運用できる人材・体制ができるまでは保留

②セミナーや記念講演会はオンライン参加を実施のための準備

７. 水俣病関連書籍の出版編集協力

①色川大吉『不知火海民衆史』　10 月、揺籃社刊

②緒方正人『チッソは私であった』文庫化　12 月、河出書房新社刊

③石牟礼道子エッセイ　編集協力

８. 水俣フォーラム継続基金の設立・協力呼びかけ

1,500 万円（300 万×5 年で支出）を目標。3 月に協力依頼発送、今年度 700 万入金

９. 総会・理事会・運営委員会

①総会　6 月 6 日、出席者 5 名、表決委任者 474 名（正会員 909 名）

②変更事業計画・予算を審議する拡大理事会　10 月 18 日、23 名出席

③理事会・運営委員会　理事会 2 回、合同運営委員会 6 回、出席率 84 %

１０. 事務所機能向上のための取り組み･運営基盤整備

①書棚・ファイル棚の整備　実施せず

②旧展示物を含む倉庫の整理と各種制作物・資料の廃棄　実施せず

１１. 助成、補助金等

①持続化給付金　200 万、8 月入金

②家賃給付金　65 万、9 月入金

③環境再生保全機構地球環境基金 21 年度助成金、600 万（上限）申請（3 年計画の 1 年目）「オンラインと対面型の併用による水俣病の普及啓発と人材育成」480 万内定

１２. 実施を検討する事業

①チッソへの旅　実施せず

理事	実川悠太	常勤	66 歳	西東京市	理事長
	関口 清	川崎市職員	66 歳	横浜市	副理事長
	東郷佳朗	神奈川大学准教授（法社会学）	53 歳	横浜市	副理事長
	郡山リエ	元･福祉施設職員	72 歳	厚木市	
	秋元孝行	江戸川区体育会事務局長	68 歳	大田区	
	瀬戸口裕子	都立王子総合高校教員	46 歳	練馬区	
	渡辺純規	事務局非常勤、元･都立高校教員	65 歳	川崎市	
	服部直明	常勤	54 歳	川崎市	事務局長
	（なお、理事は運営委員を兼務することとする）				
運営委員	後藤美穂	NPO 法人職員	62 歳	川崎市	
	石井由樹子	森のようちえん葉山「もりのわ」代表	47 歳	横須賀市	
	金尾敏恵	NPO 法人 VIVID 事務局長	57 歳	西東京市	
	篠田智子	訪問介護スタッフ	56 歳	西東京市	
	市橋久美子	企業年金基金職員	56 歳	さいたま市	
	宮崎洋介	化学会社研究員	48 歳	市原市	
	篠塚智子	ゲームライター	37 歳	世田谷区	
	市川幸一郎	相模原市立小学校教員	31 歳	横浜市	
	大八木勉	事務局非常勤、日本映画大学職員	44 歳	川崎市	